

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report

12

2011 No.687

3 はじめの言葉

4 情報音痴のおかげで

既得権者はやりたい放題

田原文夫

世論を二分した TPP 問題である。与党野党も党内を二分した。経済団体では、賛否を賛成の経団連、反対の JA 全中という形で二分して見せた。日本の貿易額が GDP のどれくらいを占めるかを知らずに「貿易立国日本」と考えている国民が多い。日本の食糧自給率を知らずに、あるいは確かめることなく「自給率を上げろ」という。日本の物価水準を考慮することなく、デフレが問題だと大騒ぎをしている「デフレ不況論」の国民も多い。コンピュータの保有台数は世界第二位の情報処理大国だと言いながら、基本情報の不足が甚だしいようだ。コンピュータの保有台数/パソコン普及率が、決して情報処理力/情報活用力の強さを表すものではないことを証明している。余計な情報は知っているが、肝心な情報は知らないということらしい。そうした国民の情報音痴を隠れ蓑に既得権者は悠々自適である。大震災後、全国民が注目した電力問題である。円高だと騒ぐ日本も、ウォン安で苦しむ韓国も、同じ原油を輸入していながら日本の電力料金が韓国の 2.5 倍だという事実を不思議だと思わない日本国民。電力の既得権者のやりたい放題のままである。

10 情報社会を考える その15

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

必要な人材が社外にはいるが社内にはいない、という恐ろしい事態を日本は迎えているようだ。特に情報システム部門の人材不足が甚だしいという指摘がある。企業等ユーザー組織内部のアプリケーションについては、かなりパッケージシステムが出回っているが、個別のユーザー組織を越えたシステム開発となると、かなり力量のあるシステムエンジニアが必要だ。力量の中には、対象となる社会のニーズを鳥瞰俯瞰的に看破する世界観が含まれる。情報社会に貢献するには、一に人材、二に人材、三に人材である。

14 日本再生/世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM構築が必要か その10

水田 浩

東日本大震災によって、多くの国民資産が瓦礫と化してしまった。その中には、多くの政府、地方自治体が管理/保有している建造物も含まれている。早くも民間企業では復旧復興をかけての作業が進められている。民間ベースの建造物については無理としても、公的機関の復興建造物の再建には何としても M-BIM 思想に基づいたアプローチをしてもら

いたい。M-BIM ベースで作業を進めることは、企画立案／計画／設計／施工／維持・保守管理そして廃棄までの一連の作業を通じた生産性向上、品質向上が実現できる。合わせて、そのプロジェクト遂行を通じて培われる創造的ノウハウ、知的集約作業の蓄積は、近未来の輸出産業に通じる。「災い転じて福となす」の例え通り、東日本再建プロジェクトは、日本再生プロジェクトのシナリオに直結してもらいたいと願うばかりだ。それを実現する M-BIM のガイドラインを示してみたい。

19 連載 アーキテクチャ論 (8)

TOGAF その2

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

本稿では、前回紹介した TOGAF (The Open Group Architecture Framework) のアーキテクチャ開発手法 ADM (Architecture Development Method) のプロセスと技法について説明する。

30 Android 端末周辺を検証せよ

データ管理はどこまでできているか

aism

直接エンドユーザーが操作する端末マシンであるだけに Android OS フォンやタブレット PC が注目されているが、実際にはこれら端末マシンがアクセス可能なデータ管理がどこまでできているか、セキュリティ対策がどこまで行き届いているかが要の問題である。データベースの統合化を果たし、データの一元管理化を図ることで、セキュリティ対策はどれだけ推進できるか、業務監査の観点から今一度見直してみるべきだろう。

34 続インテリジェンスへのいざない 24

リーダーシップもコンセンサスもとれない悲劇

今井 武

長年にわたる有価証券報告書への虚偽報告、経営者の無謀な資金引出しなど大企業の不祥事が明るみに出ている。一方、TPP 交渉への参加をめぐるのは政権中枢までが大混乱を見せている。リーダーシップの問題か、コンセンサスを得るための情報発信不足の問題なのか。いずれにせよ、情報の隠蔽／改竄、説明情報の不足がもたらす結果は深刻である。むやみな情報コントロール（操作）は、さらに悲惨な結果を招く。既得権益を壊すことが政権交代の最大のクライマックスであるはずだが、どれだけの効果が期待されるだろうか。

37 IT 新時代とパラダイム・シフト

第27回 サイバー攻撃に

無頓着な政治家・官僚の責任

根本忠明

日本の国会議院がサイバーテロ攻撃を受けた。それへの対応の鈍さは世界のトップレベル。とてもではないが、コンピュータ保有規模世界第二位の国のものではない。政治家、官僚など日本政府中枢の情報管理リスクに対する意識の低さが改めて露呈された。

4 0 ものの造れる日本再生に向けて 第二／第三の創業へ

Dr. ベスト

第 3 回 製造業を中心とする日本産業の再生

抜本的かつ根本的な製造システムの見直し改革の必要性は、鉄鋼業だけではない。他の金属関連・石油化学関連・製紙業はじめ多くの製造業において存在する。日本の殆どの製造設備（プラント）は数十年を経ており、奇しくも超円高情勢の中で、海外へ移転するのではなく、その更新時期に合わせて抜本的／根本的な製造システムの見直し改革を通して、コストや品質の優位性を取り戻し、再び Japan as No.1 への道を進むべきであろう。

4 3 一味違うウェブ検索

第十七話 反意語・対語を利用し

プラス α の情報を入手する

ぐうのうえぶへい

シソーラスに関する情報検索法は、検索内容をなお一層深掘りしていく場合に便利である。今回は直接提供されていないプラス α 情報を得ることが出来る、反意語・対語に注目してみよう。

4 5 連載 ことわざ笑タイム

すぎやまチヒロ

☆☆

WebCR 編集部からのお知らせ

本誌に連載／掲載されている記事に関するご質問、ご意見をお待ちしております。何でも結構ですので、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

さらに詳しい内容をお知りになりたい方には、本連載執筆者による講演／勉強会方式による準備もしておりますので、今後のシステム開発案件にお悩みの方は、是非ともこのチャンスをご活用下さい。

cr-info@jmsi.co.jp

☆☆

WebCR 萬相談

●ただ今現在、ERP パッケージを活用中で、パッケージに合わせた業務プロセス改革をしているが、自社独自の戦略に基づいた業務プロセス改革をしたいと考えている組織。

●ERP パッケージ活用から撤退したいと考えている組織。

●基幹系情報システムのシステム構築をアウトソーシング企業に依存しているが、現状システムの見直し点検をしたいと考えている組織。

●自社の情報システム要員を育成したいと考えている組織。

●データベースの統合化設計を考えている組織。

<http://www.jmsi.co.jp/>

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円＋税 送料(〒300)
A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2011年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの(得)広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円＋税 送料(〒300)
A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円＋税 送料(〒300)
A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍撤退所帯と新たな組み
第五章 FJO、IBM戦争	第十五章 開港場建設とバレンタイン
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働時の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 稼働時の二 安定期間と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp